

ルイ・マクニース

## 1 ラレドの街

ある朝早く 俺はアガグ王のように歩き回った  
ある朝早く 火の海を通り抜け  
舗道にむき出しになった邪魔ものを避けながら進むと  
踏みつけたガラスがジャリジャリ もつれたワイヤーがジャラジャラ

顔中<sup>すす</sup>煤まみれで歩いていると 老練の消防士に出くわした 5  
そいつは俺を睨んでこう言った  
「ラレドの街は どこも通れんぞ  
今日中に<sup>こいつ</sup>大火を抑えることなどできんからな

「ホースの先をしっかりと構えろ 斧は巧く使えよ  
銀行は火の粉にまみれ 銀行員は業火の中じゃ 10  
ラレドの街じゃ どこも略奪し放題  
署に戻るにも サイレンを鳴らさにやならん」

近くの戸口から<sup>コックニー</sup>下町おやじがにじり出てきた  
頭の上には持ち出したロッキングチェアが揺れていた  
「五十五年間 俺はこの愛の巣を守り続けてきたというのに 15  
見てみる なんてこった いっそ死んだ方がましだ」

その声でアスファルトの裂け目から登場したのは  
くすぶる大きな鬘<sup>かつら</sup>をつけたサー・クリストファー・レン  
「ラレドの街をめっちゃめっちゃに破壊させてやれ  
地代の期限が切れたら俺様がまた建て直してやるさ」 20

怒りで鼻息を荒くしたバニヤンとブレイクが  
鼻声で<sup>バイブル</sup>書物の話をしながらバンヒル墓地からご登場  
「黄金の街ラレドが倒れたぞ 倒れたぞ  
燃えろ燃えろ永遠に 癒えることなき喉の渴き」

「避難所を求めてラレドへやってきたのに」と 25  
彷徨<sup>さまよ</sup>えるユダヤ人 トムやらディックやらハリーやら  
「まずは警察署に行って申し込みと言うけれど  
そこはペしゃんこ 一体どうしろってんだ」

こうして他人の愚痴<sup>ひと</sup>を耳にしながら俺はラレドを歩き回った  
不幸が引き出す格言どもの真実味に面食らって 30  
ついに最後の低いささやきが俺の耳穴をふさいだ  
天使のささやき 炎のささやき

夜更けに あたしはラレドの街へ行ってみたわ  
深紅の真新しいドレスに身を包んだ気まぐれな花嫁  
結局待っている人たちを不憫に思うことになったの 35  
この花嫁姿を見ようと あたしの抱擁を待ってる人たちを

さあ喜びの鐘を鳴らして 日ごと放水車で遊びましょう  
足には添木を着けてあげる 口には猿ぐつわを  
ああ あなた ラレドの街 ラレドの街よ  
赤い絨毯を敷いてちょうだい 死が私の結婚持参金よ 40

(三木菜緒美訳)